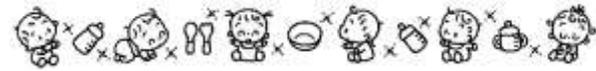


園長だより NO.52



4月7日から始まった緊急事態宣言は約1カ月半で終了、多くの制約の中での解除に安堵したいものですがまだまだ油断はできません。保育園はかかわる多くの人に支えられ、登園自粛、臨時休園の対応にご理解をいただきここまでできました。ご協力ありがとうございました。

西村経済再生担当相は「宣言解除後も一定の移行期間を設ける。都道府県をまたぐ移動は5月末まで避けていただく」と説明していた。この言葉だけ聞くと宣言を解除していいのだろうか実質的には解除していないのと同じことではと思う方もいることでしょう。

解除後からがそれぞれの意識が問われると言えます。再度の休園は避けなければなりません。登園できる日々を継続できるように取り組んでいきましょう。

「それぞれの生活を背負ってくる」

1カ月半の登園自粛期間、それぞれの家庭で過ごし、普段、経験できない日常を親子で、家族で過ごすことになりました。

企業の年間休日は120日程度と言われている。この1カ月半で1年の休日の1/3を親子で過ごしたことになる。それぞれの家庭での姿を十分に頭に描き切れないが6月から子ども達の見せる姿に一喜一憂することになると思っています。※一喜一憂とは環境や状況の変化に喜んだり悲しんだりすることですが子ども達の登園再開で悲しむことはありません。言葉を換えれば「一喜一喜」といえましょう。

ただ、1カ月半保育園での生活を離れていたわけですから、生活での学び直し、関係の築き直し、家庭でのわんぱく、おてんばぶりを少々、可愛らしいものに変化させてあげたいものです。

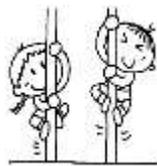
久しぶりに再開する保育、本来なら自粛中の1カ月半で様々なことを積み上げて成長していく子ども達です。心、身体の成長、好奇心旺盛で多くの刺激を受けて、自らが主体になり動き成長する子ども達、保育園同様に家庭でも確実に成長しているわけですがそれぞれの生活を背負ってくる。期間が長ければ長いほど保育士は細かなポイントをもち保育にあたらなくてはなりません。

保育再開でのポイント

衣食住 ・適正な生活リズムの繰り返し
規則正しい生活
・それぞれのペース



体力 ・良く動く身体と感覚の
取り戻し(よく遊ぶこと)
・外気に触れ、季節の寒暖差に対応する。
・遊びを通じての自己発揮
(心と体のバランス)



情緒 ・自己の気持、感情のコントロール
・思いを受け止めてもらう
・自己の要求と他者の要求や
思いの気づき



・自己の表出
・コミュニティの築き
・保育士との関係性の築き
(相互の理解へ)

育ちの理解 ・それぞれ (個)
・仲間との関係 (集団)

保護者との関係性

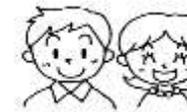


はじめましての挨拶から
しばらく疎遠に
再び関係構築へ
よろしくお願いします。

感染拡大防止

日々の安全 ・日々の保健衛生の対応
・意識向上と維持

保育士の心情



・穏やかなころもち
・子どもへのあたたかい
まなざし
※こころにゆとりを

と、あげていくと多くのポイントがあります。保育再開では生活を支え、育ちの保証を考えると細やかな視点を持つことが必要です。

子ども達の姿に寄り添って
再開(再会)からしばらくは子ども達の気持ちは高揚し思いだけが空回りという姿も見られるでしょう。

朝の登園で「ママー」と離れ際、
涙する子もいるでしょう

「ねえ 聞いて、聞いて みて、みて」と自己をアピール、自己の存在を認めてもらいたい姿もみられるでしょう。

久しぶりのにぎやかな雰囲気を押されて
自分の思いを出せない子もいるでしょう。

玩具を独占する子もいるでしょう。

仲間との再会を喜び、仲間と一緒に知恵を出し
遊びに精を出す子もいるでしょう。

言葉の語彙が増えた子もいるでしょう

自分の思いを言葉や行動に表せない子も
いることでしょう

それぞれの子どものみせる姿に
保育士はしっかりと向き合うことが大切です。



空白の1カ月半ではなく子ども達にとって意味のある日々、それぞれが育ってきた姿を受け止め、理解していくことが大切です。

子ども達との再会
保育園に子どもの歓声がひびく
保育園に子どもの感性があふれる
充実した生活が送れるよう
穏やかなころもちで

(園長 廣部信隆)